

熱帯の有用材 (1)

緒 方 健

ア フ リ カ 材

アフリカ材は、産地からの距離が遠くそのため運賃がかかるということが第一の理由で、これまでわが国に輸入されてきたものは価格の高い、装飾用材にほとんど限られていた。しかし最近では東南アジア諸国が原木の輸出を厳しくしだしたという事情や、また昨年から今年にかけてたまたまボルネオ方面で長期間雨が降りつづき、木材の搬出が停滞したために原木が値上りしたという事情などから、このところアフリカ材に対する関心が高まっている。聞くところによると南洋材の原木価が3割上がると、代わりにアフリカからもってきても価格的に引き合うという。アフリカ材にはひじょうにすぐれたものが多いにもかかわらず、わが国では南洋材にくらべなじみがうすいので、この欄でしばらくアフリカ材を紹介することにして、今回はアフリカ材全般について簡単に述べることにする。ただしここでいうアフリカ材は熱帯アフリカ産材の意味である。

アフリカ材は戦前はほとんど輸入されていなかった。昭和4年大日本山林会製作の「輸入外国材材鑑」は全部で119個の材鑑からなり、当時わが国に輸入されていた外材はほとんど全部含まれていると思われるが、アフリカ材に関してはアフリカンマホガニー (*Khaya* spp.) ただ1種類を含むにすぎない。戦後アフリカ材が輸入されるようになったのは、昭和28年頃かららしいが、統計的には昭和29年にタンガニーカ (現タンザニア) から99 m³ の輸入量があげられているのが最初である。以後最近までのアフリカ材の輸入量の経過は表-2の如くである。

この表からすると、輸入量最大の年 (昭和41, 42年) で約15万 m³、最近では5～10万 m³ 程度であるから、北米材、ソ連材、南洋材とは比較にならないほど少ない。しかし先述したように、これは主に装飾材的なもので、合板用材などの一般用材はわずかとみられるから、その意味ではわが国ですでに重要な位置を占めているとみることもできる (因みにチークの最近の年間輸入量は1.5～3万 m³、紫檀、黒檀、花欄等の唐木類が全部で2～4万 m³ である)。

東南アジアにくらべて熱帯アフリカで特徴的なことは、ひとつは国が細かく、多数に分かれていることである。これはヨーロッパ諸国の植民地として分割支配された過去の歴史を反映したものといえるが、アフリカ材を扱う上ではここに南洋材とはちがった問題があるかもしれない。

 OGATA, Ken: Useful Timbers in the Tropics (1) African Timbers

農林水産省林業試験場木材部

表-1 熱帯西アフリカの主要樹種

学 名	リベリア	コートディ ヴォアール	ガ ー ナ	ナイジェリア
<i>Aucoumea klaineana</i> (カンラン科)				
<i>Terminalia ivorensis</i> (シクンシ科)		Framire フラミレ	Emeri エメリ	Idigbo イディグボ
<i>Terminalia superba</i> (" 科)		Frake フラケ	Afara アフアラ	Afara
<i>Afrormosia elata</i> (マメ科)		Asamela アサメラ	Kokrodua コクロデュア	Afrormosia アフロルモシア
<i>Afzelia</i> spp. (" 科)		Lingue リンゲ		Afzelia アフゼリア
<i>Brachystegia</i> spp. (" 科)	Naga ナガ			Okwen オクウェン
<i>Daniellia ogea</i> ほか (" 科)				Ogea (Oziya) オジア
<i>Gossweilerodendron balsamiferum</i> (" 科)				Agba アグバ
<i>Guibourtia arnoldiana</i> (")				
<i>Guibourtia ehie</i> (")		Amazakoue アマザクエ	Anokye アノキエ	
<i>Guibourtia</i> spp. (" 科)				
<i>Microberlinia brazzavil- lensis</i> (" 科)				
<i>Millettia laurentii</i> (" 科)				
<i>Oxystigma oxyphyllum</i> (" 科)				
<i>Pterocarpus soyauxii</i> (" 科)				Afr. Padauk アフリカンパド ーク
<i>Entandrophragma angolense</i> (センダン科)		Tiama ティアマ	Edinam エディナム	Gedunohor ゲドゥノホル
<i>Entandrophragma cylindricum</i> (" 科)	Sapeli サペリ	Aboudikro アブディクロ	Sapeli	Sapeli
<i>Entandrophragma utile</i> (" 科)	Sipo シボ	Sipo	Utile ウティレ	
<i>Guarea cedrata</i> ほか (" 科)		Bosse ボッセ		Guarea グアレア
<i>Khaya ivorensis</i> ほか (" 科)		African Mahogany	Afr. Mahogany	Afr. Mahogany

と地域毎の取引名（その1）

カメルーン	赤道ギニア	ガ ボ ン	コンゴ・中 央アフリカ	ザイール	一般材	装飾材
Doussie ドゥシエ	Okoume オクメ	Okoume			○	○
					○	
	Limba リンバ	Limba	Limba	Limba	○	○
						○
Bubinga ブビンガ			Tola トラ	Tola	○	
			Mutenye ムテニエ			○
		Ovangkol オヴァンコール				○
		Kevazingo ケヴァジンゴ				○
Zingana ジンガナ		Zebrano ゼブラノ				○
Afr. Padauk			Wenge ウェンジ	Wenge		○
			Tchitola チトラ		○	○
		Afr. Padauk	Afr. Padauk			○
		Tiama	Tiama			○
Sapeli		Sapeli	Sapeli			○
Assie アシエ			Sipo			○
						○
Afr. Mahogany		Afr. Mahogany				○

表-1 熱帯西アフリカの主要樹種

学 名	リベリア	コートディ ヴォアール	ガ ー ナ	ナイジェリア
<i>Lovoa trichilioides</i> (センダン科)	Afr. Walnut アフリカン ウォールナッ ト	Dibetou ディベトゥ	Afr. Walnut	Dibetou
<i>Turraeanthus africanus</i> (" 科)		Avodiré アヴォディラ	Avodiré	
<i>Antiaris</i> spp. (クワ科)		Ako アコ	Ako	Oro オロ
<i>Chlorophora excelsa</i> (" 科)		Iroko イロコ		Iroko
<i>Pycnanthus angolensis</i> (ニクズク科)		Ilomba イロンボ	Ilomba	Ilomba
<i>Lophira alata</i> (オクナ科)		Azobe アゾベ		Ekki エッキ
<i>Mitragyna ciliata</i> (アカネ科)	Abura アブラ	Bahia バイア		Abura
<i>Baillonella toxisperma</i> (アカテツ科)				Moabi モアビ
<i>Chrysophyllum</i> <i>africanum</i> ほか (" 科)			Aningre アニングレ	
<i>Tieghemella africanaum</i> (" 科)				
<i>Tieghemella heckelii</i> (" 科)		Makore マコレ	Makore	Makore
<i>Mansonia altissima</i> (アオギリ科)		Bete ベテ	Mansonia マンソニア	Mansonia
<i>Tarrietia utilis</i> ほか (" 科)	Niangon ニアンゴン	Niangon	Niangon	
<i>Triplochiton scleroxylon</i> (" 科)	Abachi アバチ	Samba サンバ	Wawa ワワ	Obeche オベチェ

次にいえることはアフリカ全体として乾燥した地域がひじょうに多いことである。アフリカ北部の広大なサハラ砂漠はいうに及ばないが、赤道付近でも、東南アジアで広くみられるいわゆる熱帯降雨林は西アフリカに限られている。それを図-1に点の部分として示したが、ここでも年雨量 2000 mm を越えるのはガボンからシエラレオネにいたる沿岸地域だけで、内陸ではより乾燥し、真の熱帯降雨林とはいいがたい。東アフリカにも部分的にはうっ閉した森林が存在するが、大部分の地域は気候が乾燥しているために疎林からさらには草原となっており、したがって木材の生産量は少ない。

アフリカ材を輸入しているのは地理的条件からも、またかつての植民地としての関係からも、主としてヨーロッパの国々である。中でも西ドイツ、フランスの輸入量が

と地域毎の取引名（その2）

カメルーン	赤道ギニア	ガボン	コンゴ・中央 アフリカ	ザイール	一般材	装飾材
Dibetou		Bibolo ビボロ	Dibetou			○
						○
Iroko					○	○
Ilomba	Ilomba	Ilomba	Ilomba	Ilomba	○	
Bongossi ボンゴシ	Bongossi				(特殊材)	
					○	
Moabi		Moabi	Moabi			○
			Longui ロンギ		○	
		Douka ドゥカ	Douka			○
						○
		Niangon			○	○
Ayous アヨウス			Ayous		○	

多く、この二国だけで全体の半分以上を占め、次いでイギリス、イタリア、スペイン、オランダ、ベルギーなどとなる（数字が古いが、1965年の西アフリカ材の輸入は西ドイツ、フランスが共に約150万m³、イギリス約65万m³である）。

アフリカ材は同一種でも国によって取引名が異なることが多い。主要樹種についてこれを表-1にまとめた。この表は同時に各樹種の主要産地（逆にいえば地域毎の主要樹種）をも示している。ここにあげた樹種は、量とはかくとしてほぼすべて現在わが国に輸入されていると思われる。マメ科、センダン科を中心として美しい心材をもった装飾用材が多いこともアフリカ材の著しい特徴で、この点ほとんど装飾用材のないボルネオ産材などと対照的である。

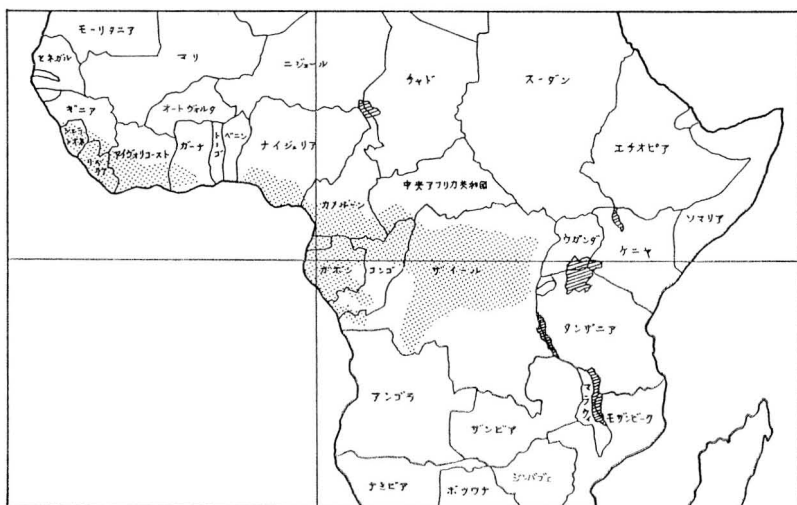


図-1 アフリカの熱帯降雨林（点の部分）

表-2 わが国のアフリカ材輸入量

年(昭和)	29	30	31	32	33	34	35	36
丸太	99	58	545	1,030	1,536	3,365	4,506	9,545
製材	—	—	—	—	—	7	—	—
年(昭和)	37	38	39	40	41	42	43	44
丸太	5,023	3,791	9,218	8,766	148,107	149,892	30,082	92,383
製材	28	15	70	37	243	76	82	35
年(昭和)	45	46	47	48	49	50	51	52
丸太	47,648	66,029	76,226	154,670	99,803	39,085	49,797	51,945
製材	189	183	101	459	525	115	114	76
年(昭和)	53	54	55	56	57	林野庁調査課：林産物貿易統計（昭34），林野庁林産課：木材貿易実績（昭33～57）による。		
丸太	75,720	106,083	84,942	55,590	69,947			
製材	183	582	548	20	—			

（注）1. ほとんどが広葉樹で、針葉樹は丸太・製材合わせて多い年でも 200～300（～500） m^3 程度であるが、昭和 51 年だけは例外で針葉樹丸太 5,979 m^3 の輸入が記録されている。2. この表の数字には「パルプ用材」は含まない。パルプ用材としてのアフリカ材の輸入は通常の年にはほとんどないが、55 年のみは 81,644 m^3 の輸入があった。